



研究を楽しみましょう

財団法人 地球環境産業技術研究機構

理事・研究所長 山地 憲治



21世紀に入って10年が過ぎ、新しい世紀の基本問題が見えてきたと思います。地球温暖化など資源や環境における地球規模の制約の顕在化と並行して、中国をはじめとする新興国の目覚ましい経済発展が進行しています。ここで問われているのは、地球規模の有限性の下での人類の持続可能な発展です。持続可能な発展はもはや単なる概念ではなく、現実に取り組むべき具体的な課題になっています。

1990年にわが国政府が提唱した「地球再生計画」に基づいて誕生したRITEにとって、人類の持続可能な発展は組織の使命というべき課題です。この社会からの期待にRITEは応えなければなりません。しかし、研究者にとって持続可能な社会の形成というテーマはあまりにも大きな課題です。具体的な研究課題にまで、社会の期待を詳細化することが必要です。持続可能な社会に向けて研究者として何が出来るでしょうか？

研究とは突き詰めて言えば、新しい事実の発見や有用な人工物（モノに限らず制度などソフトも含む）の創出です。CO₂回収・貯留やバイオリファイナリーなどの温暖化対策技術開発、それら対策技術を評価する数理モデルのシステム開発など、RITEが過去20年間に成し遂げた成果は、地球温暖化対策という目的に向けた研究として世界をリードするものです。これらは、持続可能な発展→地球温暖化対策→対策技術開発・評価というように、社会の期待を詳細化することを通して具体的課題に取り組んだ結果です。この過程の中で、新しい事実の発見や社会に役立つ技術やシステムの開発など、研究者として誇りのもてる様々な経験をしたはずで

研究機関としてのRITEは、社会からの期待に応えるとともに、研究者・職員が誇りに思い、楽しめる場であるべきだと考えています。そのためには、各自が自ら創意工夫をする必要があります。研究企画・管理・支援を担当するものは、社会からの要請を的確に研究課題として設定するとともに、研究環境を整備し、成果を分かり易く社会に発信しなければなりません。研究者も自分の世界だけに閉じこもることなく、自分の貢献を周囲に理解させる必要があります。研究に好奇心は必要ですが、社会に役立つという目的意識を併せて持つことで、アイデアが様々な展開するのです。研究を楽しむには、自ら面白いと思うだけでなく、他人のためになっているという自覚も重要な要素になります。

20周年の成年を経てRITEはますますその力を発揮しなければなりません。未来に向けて職員一同の奮起を期待するとともに、皆様のご支援とご声援をお願い申し上げます。